

平成21年度病害虫発生予報第11号(2月予報)

＜お知らせ＞ 県外産キク苗導入時におけるミカンキイロアザミウマ侵入防止対策について(本号10頁参照)

今月のピックアップ

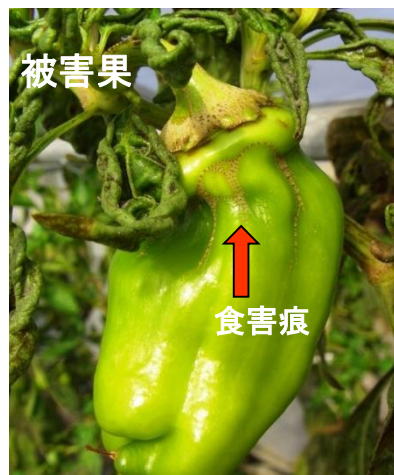
チャノキイロアザミウマ (ピーマン)

学名 : *Scirtothrips dorsalis*

幼虫と成虫



被害果



芯葉部の被害



被害葉

生態と被害

チャノキイロアザミウマは、アジア・オセアニア地域を中心に世界に広く分布している。寄主範囲は、海外では熱帯果樹、果菜類、木本性マメ科植物など100種以上が知られ、日本では主に茶や、カンキツ類・ブドウ・マンゴーなど果樹の重要害虫である。

成虫の体長は雌約0.9mm、雄約0.8mmで、体色は雌雄ともに黄色である。前翅は灰色をおび、閉じると中心部が縦に黒く筋状に見える。幼虫は孵化直後は黄白色で、成長とともに黄色みが強まる。また、ミナミキイロアザミウマと比較し体長がやや小さく動きが俊敏である。

ピーマンでは芯葉部、葉、果実、果梗部に寄生し、被害は芯葉部に顕著に現れる。被害葉は縮れ、ひどい場合は葉縁部が表側に巻き込みながら萎縮し、食害部はかすり状となる。芯葉部が食害されると芯止まりがおこり、チャノホコリダニによる被害と似る。果実が食害されると灰白色のコルク化した食害痕が残し、生長とともに変形する。

沖縄県においては、平成21年にピーマンでの被害が確認された(平成21年3月特殊報)。

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>